

國鑑

二

内閣文庫	
番號	和 28392
冊數	11(2)
函號	185 4





國鑑卷之二

夏

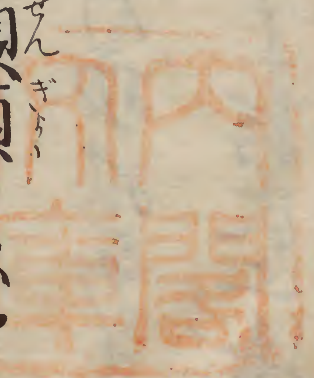
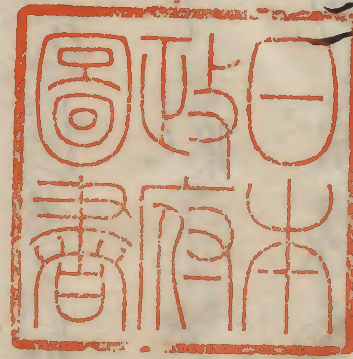
大禹姓ノ姒氏黃帝ノ孫顓頊ノ孫啓也

繇トシテ堯乃時命トシテ啓也洪水成治め

られ一たの智あるも一と人此謀を

用ひて九年乃以て其子啓成治め

は出でたりし一其死せりれと事



言きもいふに記と自の智にわたり

人謀じんぼうを用ひてて復たあきまはれり

更に大禹を司空とす一洪水城濬の免り

大禹至に乃け心下民の水に争うかめられく

昏墊とす海をいらくもと揚るあまれみ

おろしめしかはうは父乃功れあはれ

しと刑せられしとて罪に二帝れ

至んふとあき仲城かあみきあひ

水災を除きて生民を安んずらん事を

御身は任しとるひ塗山氏を妻とられて

僅四日とやに家を出しとるひおよ八ヶ年

の間居とるひしとるひ其門をむしり

かとも内よ入たまはたりしわよの勤勞

まし龍門呂梁あんとし新を切あき

水道を下よむとむしきしとるひは

平地水がしきりて田畑とある其土地の上中下

を分ちて貞賦をさすの又天下をみ

版版 旬版 侯版 餘九州冀州 兖州 青州 徐州 揚州 荊州 豫州 梁州 雍州

よりにち聲教四海よたよひて功の成

こしを養ひしるむいぎれ地平天成萬世永

頼と水土平きてみ穀草木くくらぬれ天此

萬代かびことすれとあり大舜も稱羨したまひ

かゝる大功を立しるむいしるむも露かこり

たまふ清心まゝ海をくまゝは又

克勤くつしめ于邦くまた克儉けん于家ニカ不自みづか滿假まんか國の事

たゞ家のものい餘約して自みづか海うみ驕けん慢まんの心こころなり

急いそぎのこころ小こななむ人ひと大おほ寸すんは功こう能のうををも立た

山やまのこころととおおままは驕けん慢まんの心こころは出い来く

なり驕慢の心こころそそままをを我われそそかかく

そかりは功能あはなれはあらじ

か海うみををきしと奢おご乃心こころははおおららににそ

凡功能をりて中ちゆうとんよは古今

よ高し越さらばありしと
満做しるふ沙んあり家よ儉し
くふふ私其急の大なり私實よ天地
を懐くそ肩とも世にそへり
されし今人すれ功徳よなりて
奢の心入出来あることば沙んしとや

中一巻

大舜帝^{てい}匠^いよ登りしるひし後百揆^い此

宿^{しゆく}とがしるひ畢^ひ陶^{たう}伯^{はく}益^{えき}せし
たりし戒^{けい}のたまひし沙^さ詞^し此^{こゝ}中^{ちゆう}も
后^{きん}克^か艱^{かん}厥^{くわく}后^ご臣^{しん}克^か艱^{かん}厥^{くわく}臣^{しん}政^{せい}乃^{すなは}又^{また}
としい若^{わか}うん^んのりもほつるん事^{こと}もいとむつら
はりしめて政^{せい}道^{だう}の
おさぬりね^ね又^{また}惠^{ゑい}迪^{てい}吉^{きち}從^{じゆう}逆^{ぎやく}凶^{きゆう}惟^{ただ}影^{かげ}
郷^{きゆう}音^{いん}道理^{だうり}よ道^{だう}一^{いつ}はめてしそ栄^{えい}逆^{ぎやく}のよまれの海^{うみ}は
よまのいひの響^{きやう}の聲^{こゑ}小^{せう}應^{おう}はらり
ことごとくこゝろい忽^{いっしょく}よ身^みらん^{らん}とありとのたまひます
大舜^{だいしん}老^{らう}しるひて高^{たか}し匠^{じゆう}伸^{しん}つりしるん

人心惟危道心惟微惟精惟一
執厥中
人心とて人の肉體よつきておこる心は
とて天理の性よるを出入る心とて安んずれば微
あるおと惟精惟一とみかきすゆへに一篇の道心を
執し天理の中道を執するゆへに一篇の道心を
執し人心とて事ハ心身のありてこと
執し一とて執三句をく
て命したまふこと
四海困窮天祿
永終
天は冥加はつきとてあんとあり
このいふは一殊なたることとて法教よ
て兼世人君は法かみ妣上のあ

さるへ一又科昌言して人此善言中
すくゆひて心改めて法をか
くゆふところを命を更換政
たまた後有首舜此おくとあるか
たりしを命して征伐せし心
三句まて陰系の氣色もなかり
く伯益一先師をく一文徳を
治くれんよ苗民いつて陰系せ

らんやと申はいつらよとて師をかへし
舜大よ文徳を敷たまひく純は
七十日と申に苗民率服して
そ糸けり舜崩して三年た喪終り
て高陽城と申所よ退き去り舜の
子高均を避くもひらとも天下に
人高を去るひまいつらも舜崩世
後舜を去るひまいつらも舜崩世

かハ遂に帝位よの母りしむい皇陶伯益よ
政を任したるも或日外よ出て衆人を
見しむい堯舜乃氏は堯舜れんを
りて心とよらり故よ心もよをありき
今我民は人々おの心をもよをれんを
かく罪よ前ぬ侍よとてさめくと位
たまひく純又儀狄とり人酒を初て
作りしをうまるとおもひしむいれハ

後の世は必酒をりて固わら母に者わん

このふひて儀状をきさけて酒をり

て再飲ふひのナふえさりしとせ

聖人知微ちひを既かち禁ちぢつ酒池肉林ちちうちうけん此

事ことをよやくも志しりしふふそ何なにりしき

可かし清せい沙しゃ徳とくまししは塗山しえん乃の會かいせき

しふひし時とき玉帛ぎよくをさしきて集あひりつひ

清あよ候こう萬まん國こくあつしとすけ東あづまに巡めぐりて

會かい稽けいよてかたれしふ

孔子こうし曰い禹う吾わ無な間かん然ぜん矣い。同どう然ぜんと八はつ人の透と

儀ぎ批ひ判はんする非ひ飲食いんじき而を致いた孝こう乎か鬼き神しん。

汚けらつらの飲の食じは兼けん末まつ。惡あく衣い服ふく而を致いた羞しう乎か。

黻ふく冕げん。宗そう廟ぼ朝ちやう廷ていの禮れい服ふくあり常じやうに洗せん版ばんハ見み

くしきを召めれ儀ぎ式しきよりりし。早はや宮みや室むろ而を畫え

力ちから乎か溝こう洫く。溝こう洫くハ田でん地ちの水みづりりの溝こう川がわのの

作さく事じに糞せをを入いる。禹う吾わ無な間かん然ぜん矣いとのふひて

たうとみさるひける抑言きとやき
も存食位いさくの三ツ祓身せうみに切せうあるのみあり
されハ此三よかきう奢せうの心出来て無益むえき此財宝ざいほう
をついや一府庫ふこを寧むさくて國の大事に
事ことのき乱らんの中なかとありはあり我
神祖の府庫ふこれ令銀ぎんを此流りゅうして此金
銀ぎんまよむらむ何なにも天下てんかの腐くさるもの
此れハつる事こともあきき今大島

天下てんかれ富とみを沙さり此榮耀えいようとくもむは
いふも此儉けんま一いつてそ宗廟朝廷そうぼうてい
庶民あやたれの大事だいじに金銀ぎんぎんを何なにかするも
力をつらたまふ事ことの實まことも無な同然どうぜんと
賛さん美び一いつくもひける社しゃこととありむれ
禹う曾そう伯はく益えきよ位ゐ讓じやうんとて天てんも薦せんするも
一いつくとも沙さり子こ語ご貫かん注ちゆうありければ天下てんかれ
人ひと吾われ君きみのゆ子をりとあひまよいらせしむ

遂に帝位を嗣^{つぎ}するも、賢^{けん}も、讓^{あきら}らば、子に
は、家^{いへ}を、無^む法^{はふ}代^よを、初^{はつ}と、や、必^{かなら}ず、
有^あ危^こ氏^しといふ諸侯^{しよこう}賢^{けん}も、讓^{あきら}さりし、こと、
を、く、こと、も、や、思^{おも}ひ、心^{こころ}版^{ばん}せ、さ、り、し、く、諸^{しよ}親^{しん}
征^{せい}伐^{はつ}して、これ、を、わ、ら、得^えし、く、も、諸^{しよ}崩^{ほう}と、
太^{たい}康^{こう}即^{すく}位^いあり、し、く、尸^し位^いと、く、帝^{てい}位^いも、後^ご
た、ま、の、こ、も、そ、君^{きみ}、百^{ひやく}道^{どう}を、つ、ま、し、く、も、
こ、も、も、ち、く、盤^{ばん}盞^{せん}を、好^{この}む、い、洛^{らく}水^{すい}の、お、
あそびごと

糶^{かり}して、百^{ひやく}日^{にち}、祜^く、く、り、く、も、さ、り、く、有^あ
窮^{きゆう}の、后^ご夷^い羿^{げい}、弟^{てい}氏^しの、く、さ、ら、く、も、く、河^か水^{すい}
を、限^{かぎ}ら、せ、き、る、く、都^{みやこ}、も、入^{いれ}、く、も、く、
此^{こゝ}、法^{はふ}、身^み、く、も、法^{はふ}、母^ぼ、を、法^{はふ}、い、都^{みやこ}、を、落^{おち}、て、洛^{らく}
水^{すい}、と、い、く、も、く、大^{たい}康^{こう}、を、ま、ち、く、も、く、怒^{いか}、り、せ
主^{ぬし}首^{くび}の、歌^{うた}、を、作^{つく}、り、く、も、く、夷^い羿^{げい}、遂^{すい}、も、法^{はふ}、身^み、の
仲^{ちゆう}康^{こう}、を、帝^{てい}位^い、も、即^{すく}、く、も、く、ほ、つ、く、も、の、れ
宰^{さい}相^{さう}、と、あ、り、て、權^{けん}威^い、を、專^{せん}、に、せ、ん、と、た、り、

しうとも仲康即位の初胤侯よ六師を
掌らしめ義和としる諸侯を征伐せられ
社の権りまゝ一掃くかば夷羿のものを
よもあつたさうきかくて仲康崩して子
王相炤量より備はりりし夷羿の權威
盛よして又都を追出され斟灌斟鄩
としよ西國の諸侯を頼て高丘小臣を
かくて夷羿ハ夏の天下をおとりされ

とも自射藝の妙なるを頼て政道を
をとめは田獵小のそふけり武羅伯冏を
此夏人の賢人をよそつて寒浞としる倭人を
宰相としる寒浞内官女よこひつらひ
介は迎お此人よ賄し夷羿をハ心のまゝ
田獵よ樂せける能よいつとるく内官寒
浞の味方とそなるもさされとも夷羿改
めんとせらる心も付さうしう寒浞遂に夷羿

をこゝろ奪て天下を奪けり

姦賊の國に權柄をぬきぬれそ其

初め君を誑回聲色はそこのじり

たのし海を寵姫愛妾よこひた右后

よ賄し内相結てたの誑を掩む

其惡つを罪大よて掩ぬけり

さうよいりていむろ君を弑して自

そくよ是を今同轍の姦賊の御あり

おそる下とりを廢しされ女童の

人れよりあしやそんの人君れりん

て聞し事よきこと小こと

かくて其子澆子作せて斟灌斟鄩を亡せ

王相を弑しなりぬ王相の后其時少康を

孕しぬいり実をくらめて有仍氏の國へ

たふぬひ少康を生しぬ澆又是を搜し

求めぎれハ少康又そをもたて有虞の

しんやち ちん

國よかられし事有虞の君二人の女を妻せ

田^{てん}成^{せい} 今の二里衆^{しゆ}一旅^{いちりょ}をまいつせむ

さる月とよ少康潛^{ひそ}小徳^{せうとく}をわとこ謀^{まわ}を

北^{きた}夏^げの庇^{たもと}をまひきあめし夏^げの

舊^{きう}臣^{しん}靡^びし者^{もの}有^あ高^{かう}氏^しの國^{くに}より出^いて

斟^{しん}灌^{くわん}斟^{しん}鄩^{じゆん}の討^うちを催^{もよほ}し寒^{かん}波^はを

りらほし少康を位^ゐにつけしをまらる夷^い羿^{げい}

く天下^{てんか}を奪^{うば}しより早^{はや}餘^{あま}年^{ねん}より再^{ふた}取^と

か^か一^{いつ}し^しる^るひ^ひき^きされ^れ六^{ろく}國^{こく}の中^{ちゆう}興^{こう}とし^しる^るは

か^か康^{かう}を^を初^{はつ}と^とひ^ひと^とこ^こり^りし^しり

夏の天下早餘年此同人よおしされ

て殆^{ほとん}りらむんとせし事^{こと}少康^{せうかう}の遊^{あそ}園^{えん}

既^おに^にあ^あひ^ひし^しり^りし^した^たれ^れに^に鷹^{たか}

野^の麻^ま將^{しやう}あ^あん^んと^とし^しる^るこ^こは^は金^{かね}波^は珠^{しゆ}玉^{ぎよく}を

か^かを^をし^しる^る華^か奢^{しゃ}の^の事^{こと}も^もあ^ある^る野^のを^を

山^{さん}を^を獵^りし^しる^るこ^この^の國^{こく}を^をし^しる^るの^の

ことの出來あるとはおのひもあま
けきと君は清心あくさあ中へ入料よ
雁おとさし鴨おとさうさうとて農夫の
終年力をつくせし田の実歌むる進ふ
事もかなるさるのさうは雁馬隊犬引を
しるやしきめの君の威をかりて
波をいりさきをとがめ思ある田吏を
たひやうし金とる者幾人といふ救

をきくは謹君一日の清殺とて救
十里の間日小害かうするより大方を以
とて承るされ太康の十句まて之は
しと穰くさあひしと國亡は基とあれは
ある事ハさうもあるたれ
後八代の帝小孔甲としるる鬼神を好て
志りも淫乱ありしは夏の徳衰てたり孔甲
れ曾孫を履癸といふ節桀王のこのる孔甲

よりこゝろに諸侯叛者多かりしに桀尤之
道小して志かも諫の鉤を引のち又鐵
を索小する母よの力量ありしに己の材力
をたのみ徳義をまきと兵威をのこせし
々海有施氏といふ諸侯を征伐せし時有
施氏怒て妹喜といふ女を献し之れは妹喜大
小寵愛して是をよろめこむせんや瓊室
象席とて玉を飾し宮殿を作り又酒池

肉林とて私おしめらるる酒の池を
うかち牛飲とて牛の水飲とて池小りけ
て酒のむやのよの上戸を三千人集めて戲ま
あそびて妹喜をよろめをける殷の咸湯いも
して惡行を改めし先んとおのひしむい保
といふ聖人をたしめてみしむもて桀よ
は之れも用由しともせざるのよかハ
圖龍逢といふ賢人を初として諫し者をハ

若子そこごこゝろう辛曹せんそう觸龍しよくりゆうをといふん漢者かんしや

やのこちゆうしやう出しひりくは天下の民てんかなるんまんきの

あまりり小築せうぢくらら曾我そうが天下てんかををいいひひるるは

天てんのの日ひ何なにかかここししくく日ひ何なにかかひひああをを我われもも亡なししひ

ああんんををとといいひひららるる詞ことばよよつつききてて築ぢくよよ日ひといいふふああこ

名なををつつけけ時このひ日ひ害ひがひ喪ぼう予よ及と汝なんぢ備び也やとといいふ

築ぢくららままららるるををああはは我われももととももよよららるるららるる

ととももいいととららるるととももいいひひけけるる咸湯せいでんもも批ひ

ととばばぐぐ民たみののななききををここののままららふふ小こ井い也や

ああはは天てんののたたををれれあありりとといいふふ伊い平へいととももかかりりて

築ぢくをを伐うちち南なん巢そうとといいふふ而しか一いつここめてて天下てんかに

民たみををたたららひひとといいふふ

凡おの國くにちちららほほええんんららひひ品しんここををかかれれと

奢あやう小こららるるここららははああらら奢あやうはは驕けう慢まんのの心こころ

下したりりたたららりりてて是こゝをを道みちひひくく小こ婦ふ人にんををああし

是こゝをを抱いだれれししむむ小こ酒しゆをを以もつつててせせんん小こ何なにの

いづらふも所何らん築大禹の満假し
 たまもさほごとをまはれて材能勢位
 小なりし一節り小がしこくもおの
 才を天の日小たとく大禹の塗山小なり
 て四日といふ家をま出さぬひてふあを
 おさめあひしをまはれて妹喜のあはれ
 大禹れ宮室をまきくしこぬひしを
 わたれて瓊室象席をつくり鬲を
 孫しこぬひしを忘れて陳良をこら
 酒をうらたまひしをわをきて酒池を
 作り九丘九事として大禹の教よ友
 せざるいあ興れる君れ道よ友せは
 わらひさるもや何さきあはれば継體
 守成の人君一日も祖宗の訓戒を忘
 ぬはら恭儉を平とせしれん事
 こそ長久の基なりとれ

夏の天下ハ大禹ノヲ桀ヨリテ十七代
四百十八年ハ一ノヲ禹ノヒヨリ

殷

成湯姓ハ子氏名ハ履又天乙ト号シ
十二世ノ祖ヲ契トシ帝嚳ノ子ナリ
禹ヲ依テ水ヲ治メ又司徒トナリ
五倫ノ教ヲ掌リ高トシ國ヲ封セテ
一ウ成湯七十里ノ國ヲ領シ夏ノ子ナリ

不遜音曲聲色女色不殖貨利

金浪ありめ用人惟己

改過不吝克寛克

仁氣長尊徳葛伯

諸侯民の餉おくる童子とこそせし
かば小らき振舞かるとして証伐ありし
なりとに童子を為よとら鯨言むといふ
涉心ハ新きとて曰夷美國の民成湯を

まらひ見ひ我君をまらひ君来らば蘇えん
としひて東征^{とうせい}されは西夷^{せいゐ}然^{うら}み南征^{なんせい}
され^{かくてま}お秋^{あき}うみま^{あき}うせ何とそ我を
後^{あきら}よ^{あきら}う^{あきら}ま^{あきら}そ^{あきら}とて討^うひ^うけ^うる^う所^うの
民^{たみ}室^{むろ}家^か打^うこ^うり^うて^うろ^うこ^うひ^うあ^うひ^うけ^うら^うと
ころと

湯^{たう}が^{たう}童^{どう}子^しころせ^{たう}葛^{くわ}伯^{はく}氏^し征^{せい}伐^{ばつ}
一^い一^いを^いを^い西^{せい}夷^ゐの^い國^{こく}ま^いが^いく^い事^い

とたのひけ^たこと^たは^た非^ひ富^ふ天^{てん}下^か也^や為^な匹^{ひつ}
夫^ふ匹^{ひつ}婦^ふ渡^{わた}難^{なん}言^{げん}也^やと^ふて^ふ天^{てん}下^かの^ふ富^ふを^ふ不^ふし
と^ふ何^{なに}と^ふい^ふく^ふ魚^うる^うも^う一^いき^い沙^さ心^{しん}お^い海^{かい}に^い
海^{かい}に^{かい}匹^{ひつ}夫^ふ匹^{ひつ}婦^ふの^ふ救^{きう}あ^ふぬ^ふ者^{しや}も^ふも
非^ひ道^{だう}小^{せう}い^いの^いら^いう^いし^いる^いを^いま^いま^いし^いい^い何^{なに}み
思^しひ^し沙^さ心^{しん}の^{しん}天^{てん}下^かが^かな^かい^か民^{たみ}心^{しん}成^{せい}動^{どう}
これ^{これ}私^しを^しあ^しく^して^し國^{こく}那^なの^な不^ふし^ふま^ふ
さ^させ^さる^さ事^じも^じあ^じく^じ家^かよ^か湯^{たう}の^{たう}口^{くち}ま^{くち}

して人の政よ雜よんくを付けて軍おこさ
湯つみんぞ此罪人とやり辱しき

時小伊尹いん元聖げんせいの徳とく有りて土氏とみんの才さいよ
かれ居いりりしし成せいまひまききをを伸のとあめ
て道みち成せいままひひささてて國政こくせい成せい任にんせせるるも
後のち又また桀けつ小こききめめししららともも用もちささりりししは
伊尹いんも夏かれれ徳とくををみみららししととああひひ又
成湯せいとう此方こゝかかりりままいいりりて夏かをを伐はつてて氏しを



ををふふるるををままししめめけけるる桀けつ國こく龍りゆう逢ほうをを殺ころし
かれは成湯せいとう人ひととといいふふををいいひひややりりけけるるを
桀けつ怒いかりり成湯せいとうをを夏か臺たいとといいふふをを桀けつ獄ごくせせれ
ききかかりりゆゆををいいてて或ある日ひ出いてて回まわりりにに網あみををりりて
鳥とりをを見みてて是こゝににおおををつつららををりりて
之こゝのの網あみををささるるをを一ひと面めんとといいひひみみしして
鳥とりをを獲とれれ漢南かんなんのの諸侯しよこう湯とうのの仁德にとく
禽獸きんじゆうもも及およびびけけららししてて歸かへるる者もの

四十餘國とて開く樂々五道日子あり

甚しく天道えんきうのみをなすは伊尹終り湯

をたけて夏をわら月しければ諸侯皆

湯を推して天子とそ作おとぎりる堯舜禹の

揖讓いさくじやうをひて位をつとむひつて成湯初

て干戈えんごをもて天下を降くだるれん事法よ

愧たてりしとおひひるひかつうは末代よ是を

はくさとして君小指こさつくものあらんこと

をおそれしむひければ仲虺ちゆうけいとて賞かん后

文をつらりて夏桀げつの伐うせんはあらんこと

さる事を述べてたり

天小應てんおうし人小没じんめつひ暴ぼうを除のぞいて民

をたらくは天下てんか美み世せいありつるは軍

をふもろつうとたひひるは

心をたうと事又末代の口實くちじつらん

事をおそれるは愚おろそかそふりき

湯遂小帝位湯の月月り伊尹仲仲虺
を右相相と一築築政政小小川川て寛大
と以て國を治め民の祿をすま小使使ひ
し多ひ一社社に天下殷小小と帰しよげる
夏夏をちろ月せ一年年うう七七年年間間大大旱
はきなれは是政の阿阿くくて天の答也
と一成成湯湯と一素素林林と一小小而而よよいいり
し多ひ政をあらうる民職職をしるる

宮室宮室くくささらら婦婦媪媪盛盛あるる苞苞苴苴のを
か澆夫夫昌昌あるると一小小の事をみて自ら
責責し多ひ一大大雨雨たらりて数数千千里里の内
うる月月ひひげるとあり

妣妣のを條條れれいいのりここを弟世世神神小
祝祝詞詞やえんんの中よよ有有なれされは
天天も感應應まましき若若汚汚くる政
阿阿んん小小像像を飾り祠を尊し終也

誦一幣へいを捧たてて神小こひうりとも

聴明正直おんめいしやうじきなる御神おんかみのうけしるふとき

くは又また竟小九年きやうきゅうねん此洪水こうみづあり湯小七

年の旱ひであありかれとも民乃たみ餓死がえ

しりともいふを幾いくうもいうよとあれハ

縁わづかめ其そのををせしむありされハ

水旱すいあん凶荒きやうこう小あひて人の餓死がえせむハ

皆君みな此この述のりあり四小三年よねねん此たらく

あきをを四小ありはとりを礼記らいき小記昔

ことごとくをりされ

在位十三年ざいゐじゅうさんねん壽一百歳じゆひやくざいまで山崩やまぶせしる太子

太子たいし早世はやせいのしる次の王子つぎのおうじ外丙ぐわいへい仲士ちゆうし嗣つぎ負

歳さい短たんくかされしるひたれハ伊尹いゐん太子たいしのしり子

太甲たいがふを位ゐふつけよしせけり太甲たいがふ徳とく小治ちあり

はたましりてありしるも伊尹いゐん小振舞ちるまいの伊尹

此心このこころとあしはざりしる伊尹湯いゐんとうのおこり

くむひくると夏の七より一事をこゑ
このて再三いさめ申せしうも太甲聞ん
ともしたまはさるりけり伊尹是れなりと
ふこそとて湯タケノの側そばに桐官きりかみとり
御ごを洩り太甲をうりしまひ世祖よぢを
湯タケノをたのひかきみるゑ善心ぜんしんを
たごしめ申事もやと三年さんねんの同どうに龍
まひつりし太甲たいがをく過あやまりて自みづから

うく自艾みづかりてに義ぎ成なり修おこめむひたり
伊尹いじん大小たうせうをいやく冕服えんぷくをめさせし
亳はくの都みやこへ迎むかひてまつるる政せいをくし
とて無な輕かろ民事じんじ惟ただ難がた五子ごしの被か小民せうじんのそむ
をつりらるるつ無な安やす厥その位ゐ惟ただ危あや神祖しんその遺い訓くん
をのいひりし船ふねの中なか小舟せうしゆをたげる家いへよ有あ言こと逆さか于を汝に心こゝろ必かなず
臥ふ心こゝろをふ忘わすれし心こゝろをふ忘わすれし有あ言こと逆さか于を汝に心こゝろ必かなず
求もと諸道しよどう有あ言こと逆さか于を汝に志こゝろ必かなず求もと諸道しよどう非ひ道どう人ひとのこゝろ必かなず
車くるま道みちまたまたよよととああしし心こゝろをふ忘わすれしととありあり世よ二に句く

成王の言きえんといひしハ實も歳安教よそそ
多き心好あり

されともや太甲より後をよしくして庶民

を登りんしめしみ成湯乃業成ありまふ

よく過成補ふ令主を右より殷に

太甲周の成王とあり申ありこれも

成王ハ初叙父の周公を叙ひしるひき奄

ハ後よ異姓の伊尹を叙ひたまふこととほ

然ハ太甲の法智の明ある事は成王より

ちるり越るるよ小こそ又案するも此

時伊尹はあらさりせハ太甲ハ夏は太

康なりめ世豈夷羿寒浞つたひえ之

かハんや殷の天下此人の家乃おとある

目のまよがる一ハおひてまら外は毛

立登るにこそあれは此ハ國よ柱石の巨

れありん祐大なるさいといふ一ハれ

おもんせざる處らんや

沃丁くわつてい太庚たいこう小庚せうこう雍巳おうきを継ついでて太戊たいふより
雍巳おうきの時ときより殷いんの道みち稍やう衰せうつて諸侯しよこう比
來きた朝あそせざるも多おほかりき此こゝ時とき素そと穀こくと一
本もととありて沛び殿てんの庭にわとせざる怪あま異い
有り伊尹いの子伊陟いしつ宰相さうたりし妖よう徳とく
ふがうに沛び政せいの嗣ついでたる素そはしゆとやと
けれ大戊たいふおそれて先王せんわう乃すなは政せいを修しゆ免めん
くむいしるをうて素そ穀こくおられてきり

を方あたれ夷えい才さい朝あそたる者もの七十しちじゅう餘あまり國くに殷いんの乃すなは
まじおこりしやと小中宗せうちゆうそうとてありめ
中々ちゆうぢやう有ゆう功こうを祖そと有ゆう徳とくを宗そうとせしめて
初はつて天下てんかを考かうりめくむいし天子てんしを太祖たいそ
とありめ其その後のち徳とくある天子てんしをハ某まうの家けとありめやる
ありて百代ひやくたいの久くきを絶たえざる祖そ宗そうのたまふりは
武ぶのこころかたきふるありしれあり是こゝ太戊たいふを中宗ちゆうそう
とありしより事ことおこれりと社しゃなり

天あまの人ひと君きみを愛あいしるふこと一ひと言ことばなり
志こころはる故ゆゑよ苟なほも徳とく小嗣せうし失あのましめて
冲心ちゆうしんつきしるふは天あま必かならずありし

ことをあしりて戒めしむる尚ほ心
はうされい又大なる災を生しそいしめ
る尚ほ又沙心つりされ國の危亡出来
ありされ怪異を恐れ徳をつりこ
政を修めしむりて國のたよりさるる
こと大戍のこととなりせ妖怪とや
應き又吉瑞とやし今怪異をらん
よおの徳つりしむるとはおもえしむ

神いのり佛にまんとするはそもく
いふまよとるよ

仲十外壬河直甲。祖乙。祖辛。沃甲。祖丁。
南庚。陽甲。九代。小乙。盤庚。よする仲丁
りりこのる。黄河の水難ありて志し
遷都あり又嫡子成しそ。庶子を立
久佐ありそひて。之に彼といひ是
とひ諸侯の末朝もそく。なり盤庚の

初又氷種をさけて遷都せんしるべんと
信あやうれとも小民土しんを安んやすしうり申まん
るをうれおのひけり盤庚ばんこう民たみれがこを
むるをうれいりしるべ心こころままままをあや
れ賤せんの男をとこもそ御殿ごてんの庭にわふれしつひて
まろく利害得失りがいとくあつのこととをりを諭さとし
しるべい遂つひ小湯こたうの都みやこしるべいし毫さう小
遷うつままそ湯たうの政せいをおこるひるひしるべ
般はん

又たこりてたり

小民せうたみのおろろある目前めづらの安やすきよ安やすして
後あとの禍わざはひをおろろしるべままつことふたり
しるべいしあらさうしは盤庚ばんこう威い權けん
をたて制せいしるべいしるべいし心こころの信しん
版ばんせんがきり諭さとしるべいしるべいし
世よ事をわらるりのかことやうしるべい
小卒せうそ小せうを強つよて武ぶ丁てい出でるべり武ぶ丁てい王わう子し

より一^{せん}時^ち河^か父^ふ小^{せう}乙^お氏^しの^の艱^{かん}苦^くを^を志^しら^らせ
中^{ちゆう}さん^{さん}と^とて^て田^{でん}舎^{しゃ}小^{せう}お^おく^くお^おろ^ろく^くま^まり^りて
甘^{かん}盤^{ばん}と^とい^いふ^ふ賢^{けん}人^{じん}小^{せう}お^おま^まる^るか^かひ^ひく^くる^るひ^ひき^きこ^こえ
泣^など^どつ^つき^きく^くの^の河^か父^ふ三^{さん}年^{ねん}の^の変^{へん}果^{くわ}く^くも
河^かの^の政^{せい}を^をも^も作^さり^りく^く福^{ふく}小^{せう}臣^{しん}下^げい^いく^くま^まい^いま^ま
中^{ちゆう}の^の民^{みん}は^は恭^{こう}黙^{もく}く^く治^ち道^{どう}を^をお^おの^のひ^ひく^くら^らひ
く^くる^るお^おの^の心^{しん}の^のま^まこ^こと^と天^{てん}小^{せう}通^{つう}く^くる^るや^や天^{てん}帝^{てい}
より^{より}良^{りやう}弼^{びつ}を^をく^くる^るふ^ふと^と夢^{ゆめ}見^みく^くる^るひ^ひげ^げより
よき たすけ

作^{さく}あり^りて^てや^やく^く變^{へん}此^{こゝ}姿^{すがた}を^を絵^えよ^より^り
遍^{あま}く^く天^{てん}下^げに^にく^くの^のめ^めら^らは^は傳^{でん}巖^{がん}と^とい^いふ^ふ
よ^よ道^{どう}化^けり^りて^て存^{ぞん}より^りく^く傳^{でん}説^{せつ}と^とい^いふ^ふ人^{じん}よ^よ
も^も絵^え巻^{まき}よ^よく^くは^はり^りく^く福^{ふく}よ^よめ^めさ^され^れる^るを^を
突^つも^も聖^{せい}人^{じん}よ^よそ^その^の何^{なに}を^をく^くる^るこ^こと^とよ^よお^おい^いて^て立^たて
宰^{さい}相^{そう}と^とな^なさ^され^れ常^{じょう}小^{せう}左^さ右^うよ^よ変^{へん}く^くる^るひ^ひて
若^わ余^よ身^みの^の金^{かね}あ^あら^らば^ば汝^{なんぢ}を^を礪^とと^とこ^ころ^ろお^おも^もい^いあ
若^わ巨^{きよ}川^{せん}を^を渡^{わた}り^りた^たと^とい^いふ^ふ汝^{なんぢ}は^は是^{こゝ}舟^{ふね}楫^しよ
ふね

目のまよふやよの薬ありには疾のいふき
くいりあるつよき徳をも中せりーと乾
作れハ傳説も心をつくくそつう中せし
中おもあまなるゆハ人君中一の也こもある
理りのいられしる社第世のけりみよそ
あんあつかりる君臣の遇合ありりーハ巒
夷も東倭ー荆楚鬼子らんよの僭乱
此國を征伐ありて殷道又おこりれハ

高宗とそありまへなる

廟堂のよそそ君相のいましめおそれ
くもらんよ其威の四夷萬國よおそれ
こと雷霆のことくそそいふある僭乱
を道の者もおそれかーつぎ中一
ら矢打ぬりて四夷おとらんことば
おろりありとやー又業はらんよ人
れ知覺ハ神りり安ん神ハ覺れハ

目よやとり寝き心よやとり
され夢寐の同よ形をかき事及
心の氣とや中き人の穢のいれ
穢れ男ス心よも天地を動をこと
そのため古今にそなるはいうよ
祝賢王の恭黙して道おひま
清穢のいれるをや天の神理を
かよひて良弼を夢寐よ感よま

るの事理あまふもあはら
とそい又高宗二年恭黙の穢
しておほろけあり夢よやろよ
事れ定とせんことは惑る心よあ
祖庚。祖甲。稟辛。庚丁をて武こ又
各道あり亦偶地りて天帝と名つけて
共よ博奕一人て天帝のよあ駒つを
天帝勝されは是を戮辱してころころの

又革囊かもしぶくろ小血をとりて作あまひて是を射
て天を射うつといひけるあんとおそろしき
ふるまひのこ有あるやとよ。獵うち出ける
時雷いらい小ううれて死してけり
凡武乙の志をさ心失こころをひておそるる
ところ見下し假令たとひいある暴虐あつあり
とも人の心地こころちあらん人のせんする事か
と弘おまへされと人の君きみたらん人の

天を恐れしる事ことは心の落おそり
たしひをうらためしと同一道どうお
落おんこととおそろしき

太丁帝たいてい乙の跡あとよ射王ちやうおう弘出いだし来れり射王
名受勝れてなうゆくとよ生質なまよくいふも
同おなやく耳みみさしく猛まげ手て獸けものをよとりよ
よら福の材ま力りきあり智ち良りやう凍こをふせく小
しう詞ことばが罪つみをかきらに足ありたの守まもり能よ

小がこりて人を人ともおもひおめをひたし
藤原悪来（むらぎ）むとこし終傳（おとぎ）の悪黨（あくたう）とのこ
巨わ川（おほがわ）めて出頭（でうとう）しける宗廟社（そうぼうしゃ）搜（さう）をうち
とそとあんともせす又軍（いっせん）もさるりどあそ
てあとも百（もも）しひ戦（たたか）て百（もも）しひかたはよふ
るゆかしく有蘇氏（いうそし）といふ諸侯（しよこう）を征伐（せいばつ）そ
姐（あね）已（や）といふ女（むすめ）を母（はは）て寵愛（ちゆうあい）ありしより
あとの奇技（きぎ）淫巧（いんこう）をつり又呼（よ）洵（しん）
あしきまぶらむききりたてこ

といふ警者（けいしや）小作（せうさく）てお里（うら）に舞靡（まいび）こ
れ樂（がく）をといへるたをれゆる音曲（おんきょく）つくらせ
又酒池肉林（しゆぢにくりん）はけり男女（おんな）は保（たも）うて
其中（そのうち）小遊（せうゆう）をいへる勢長夜（せいぢや）の飲（の）とて幸（さい）
小宮殿（せうみやうでん）つくりその内（うち）をそ夜晝（よるひら）とあく
酒盛（しゆせい）し只姐（あね）已（や）をよふここせんとのこ
そしるる又賦税（ふぜい）をあつらそ財寶（さいほう）
を鹿臺（ろくだい）小つと米穀（こく）を鉅橋（きよはし）よたくと

姐イハ己ニウレ正シくレめカ心ヲ考スレテ刑ノ罰ヲをさか
くレてレ炮烙ハツラクノサハ之ノ刑トてレ銅ノ柱ノ油ヲ
をぬり炭火ハヒの上ニ小ササリてレ罪ノ命ヲ
そノ上ニあらむをせらりこけて火
中ニ小サ落テらるむを姐己ともふ小
是ヲ試ミてレとつともうひく樂とす况
時天下之分の一も也周ニ文王に詢し
これも文王后下の道をうへりあひ

くもむに九侯鄂侯とももよこ公とあり
たまふ九侯女氏討ハ進メり其女
淫乱をこのまさらりよくとて是を
ころく九侯をも醜とせんとす鄂侯
をさらに争ひとめ中々色は是をも
殺シて脯として中々文王聞て潜
子歎きくもひく又文王をも禁獄とす
周の群臣をられて室玉名馬を献てレ

わひ中^{ちゆう}はれは^は討^うよ^うろ^ろひ^ひ文^{ぶん}王^{わう}を^をゆ^ゆじ
て更^{さら}小^{せう}西^{せい}伯^{はく}と^とて^て西^{せい}方^{ほう}の^の旗^{はた}に^にと^とし^しる
初^{はつ}討^う象^{しやう}箸^{しゆ}と^とて^て象^{しやう}牙^がを^をて^て箸^{しゆ}作^しる
車^{くるま}あり^りき^き討^うり^り諸^{しよ}父^ふ箕^み子^しと^とし^し賢^{けん}人^{にん}
お^おぢ^ぢけ^けき^きて^て象^{しやう}箸^{しゆ}作^しり^りと^とん^んか^かれ^れは^は玉^{たま}
杯^{さい}を^をこ^こと^と作^しらん^んと^とめ^め玉^{たま}杯^{さい}作^しり^りと^とん^んせ^せ六
必^{かならず}遠^{とほ}方^{はう}に^に跡^{あと}お^おろ^ろと^とん^んと^とこ^こを^をお^おり^りし^し
けれ^れされ^れは^は輿^{こし}馬^ば官^{くわん}室^{しつ}の^の奢^{おご}れ^れ長^{なが}せん^んは

象^{しやう}箸^{しゆ}こ^こと^と初^{はつ}あり^りし^しき^きとい^いひ^ひり^りの^の案^{あん}小^{せう}
たり^りと^とい^いか^かが^が流^{りゅう}淫^{いん}洗^{せん}と^とて^て及^{およ}き

箕^み子^しに^に中^{ちゆう}せ^せし^し車^{くるま}も^もこ^こと^とし^し小^{せう}美^み世^{せい}
人^{ひと}君^{きみ}の^のう^うき^きは^はい^いま^まし^しめ^めう^うを^を何^{なに}に^に
處^{ところ}な^なれ

かく^{かく}て^て箕^み子^しを^をあ^あく^くと^と陳^{ちん}と^とも^も用^{もち}ひ
られ^れら^らの^のみ^みあ^ある^るに^に囚^{こら}は^はれ^れと^とあ^あり^りよ^よろ^ろ何^{なに}を^を
き^きり^りと^とあ^あら^らや^やと^とい^いひ^ひけ^けき^きは^は陳^{ちん}き^きと^とれ^れに

とて立ちあがりん君此恩をわらうをばり
さくさくき髪してあつひといつたり
奴とありて身ばけりしより王子此十
毛を見て君の遺を死をりて弟は
百姓何れ罪ありてかろうきめをみる
とて二首の向退くはしていさめしう六村太
いりて此十のおのれ聖人とやあまよ
らん聖人の心よ六七の竅ありとまきく

まこととやといひて胸をさうきしてそ
ころーけかりーねよ般のちろん
事目のまありしは討う庶兄微子啓
家祀のよあんをいさみ人の居らん
道はこつひいさめて聞さきは去りそ
般を立去りてにばそふかぐなりし
とハ討う悪けり目よ甚しく婦女の懐を
さき畚小川をいれる公府の腰をさう

あんといそんかになりけるやとよ獨夫
討とて天下管うしとみとて誰一人
せんとおりのもあく天命既よ見
をならしむよと見しりける武王を
孟津まで出陣ましくく朝せす
會ひるの八百諸侯殷の士女を幣
帛をさけて武王の師をむく討り
兵も林のことく牧野小出張せし

武王小楯つく事はさくおき女を
倒小して後陳びせめて迎ちりぬ
討の麻臺ふけあり色くの寶玉を
そりまあとひてさく焚てそ死てり
お目よを討りふことば一ツ築
まよしたるやうにさそられいよ
討らるありとも築かきこと
わろひとらんを撫きしりせは

なとわいれそろしとわいふ心乃
いてきさらんたのすおせらりてお
まおよといふ事せらりたれはかた
悔のららるとなるゆをもしあらうて
りらひらるそもあき又女の圖やほを
るゆ成亦たけくおふたよりすよ
たらら神たいをりて救ふ人の本をが
ことば本まの心をくはこそあといふき

たよえめ おろ せん
ゆ弱女の千乗美乗れ圖をあらほを
ことば君この心こをまことせはこそ凡
女れ人まことすことばみのかうら
かざりて百のこひりてせんしやを
さらあり才うある女、事おふ
ふつけて理りありけよあやこを
猶おそろしとれ柝せあうしと
おりることおひらるあらしと圖ちふ

驕慢きやうまんの心をりてこめかきしうらうら
年月としつきあれし者の胡を夕を百のこい
はくして泣つるひつ理りよはは
こととやさんよ剛明こうめい謙讓けんじやうの徳ま
よこらんよはいつそ迷ひしぬら
るきされは女のやさんことい
理りつくせりとも必大臣賢者よ
同じなほいいて法道ほふだうなからめ又討か

ありてしことい平おのう才能さいのう小
やこり驕慢きやうまんの心よりおこりた
よそされはは孔子くふし下思げしはうま
とのさあひし必しもおらうまら
人成ひとなりのこころあはれ才力さいりき人よこして
あつてもよ子ゆりしる討つ類たぐひの
事ありし程子ていしも説とちれてかひき

殷の天下二十八代六百四十年よして七ひ



し

國鑑卷之二終



